

幼少期からのアトピー・喘息・鼻炎と長期治療を経て発赤が軽減した成人アトピーの経過 (30 歳 成人)

症例 ID：001-30-MY4

記録日：2015 年 6 月 25 日

1. 診断・治療前経過

幼少期から喘息とアトピーがあり、小学校高学年頃からステロイド外用薬を使用しました。春から秋には鼻炎と眼のかゆみもみられました。

18 歳頃から皮膚の乾燥が強くなり、外用薬を使用しても改善しにくくなりました。25 歳頃に皮膚状態が最も悪化したため受診しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	小学校高学年頃から皮膚症状にステロイド外用薬を使用しました。喘息や鼻炎には吸入薬、抗アレルギー薬、点鼻薬の使用歴があります。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	小学校高学年頃から成人期まで断続的に使用しました。
中止時期	25 歳頃の治療開始前です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期～	複数症状	アトピー、喘息、鼻炎が続きました。
小学校高学年頃～	外用継続	ステロイド外用薬で悪化と改善を繰り返しました。
18 歳頃～	慢性悪化	乾燥が強くなり、外用薬が効きにくくなりました。
25 歳頃	治療開始	皮膚症状に加え、喘息と鼻炎についても治療を開始しました。
治療数か月	呼吸器症状	喘息はほとんど出なくなり、鼻炎は春頃に限られるようになりました。
治療 1～2 年	皮膚症状の強い時期	手関節から指の表皮が剥がれ、発赤と痛みが続きました。
治療 3～4 年	改善傾向	皮膚の発赤が減少しました。
治療約 5 年	記録時点	発赤はほとんどなく、乾燥が残る状態でした。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始後 1～2 年頃に手関節から指まで表皮が剥がれ、赤くなり、空気に触れるだけでも痛かった時期です。

5. 困りごと

- ・手洗いと消毒の多い仕事のため、手の乾燥と処置が負担となりました。
- ・頭痛や発熱時にも鎮痛薬を使わず過ごすことがありました。
- ・フケ、発赤、乾燥など外見上の変化が心理的な負担となりました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

時期	総 IgE
治療開始前後	約 1000
治療初期	約 1300
治療約 5 年	200 台

7. 経過のまとめ

治療 3～4 年頃から皮膚症状は改善傾向となり、記録時点では発赤はほとんどみられなくなりました。喘息は数か月でほとんど出なくなり、鼻炎も春頃に限られるようになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。